

# ゼニゴケ

庭のすみなどでは、図1のようなゼニゴケが見られます。ゼニゴケはとも増えやすく、庭一面に生えることさえあります。このコケの体の特徴とくちょうとよく増えるわけを紹介しましょう。

ぜに  
「ぜに銭」から名づけられたゼニゴケ

ゼニゴケの体は草や木のような根や葉や茎の区別がなく、地面にはりついたように生え、ふたまたに分かれながら生長します。ゼニゴケの特徴は、体の先の方にある小さなさかずきのような部分です。ゼニゴケの名前は、このさかずきの部分こうかが銭（硬貨）のように丸いことから名づけられました。



図1. ゼニゴケの体

増え方その1 らん 卵とせいし 精子で、ほうし 胞子がつくられる

ゼニゴケの増え方の一つに、胞子（種子植物の種子にあたる）で増える方法があります。春、または秋、葉の表にカサのような形のものができます（図2）。



図2. お株とめ株

左がお株、右がめ株。カサ状の部分の形がちがいます)

ゼニゴケにはお株とめ株があり、てっぺんのカサのような部分で、お株では精子、め株では卵がつくられています。精子が、め株のカサの中にある卵に入ると、胞子がつくられます。粉のような胞子は、風によって運ばれ、落ちた所で生長して新しいゼニゴケになります。

ただし、このように卵と精子から胞子がつくられて増えるには、条件があります。お株の精子は、め株の卵まで、雨などの水滴すいてきの中を泳いでいきます。そのため、お株とめ株のカサの距離きよりはある程度、短くなければなりません。

しかし、野外ではお株とめ株と一緒に混じって生えている所は少なく、ほとんどのめ株では胞子がつくれません。では、どのようにして増えるのでしょうか？

## 増え方その2 分身の術

ゼニゴケは胞子以外の方法で増えるしくみを、さかずき状の部分にもっています。さかずきの中を観察すると、直径0.5mm くらいのつぶがいっぱい入っています(図3)。物語「西遊記」の孫悟空は、引きぬいた自分の毛から分身を生みだします。それとよく似て、このつぶはゼニゴケの分身(クローンという)にあたります。雨が降り、さかずきに水滴があたると、つぶは水といっしょに流され、落ちた地面で育ちます。このようにしてゼニゴケはクローンでどんどん増えることができます。(坂井奈緒子)



図3.さかずき状の部分の拡大



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 TEL(0764-91-2123)  
ホームページ <http://www.tsm.toyama.toyama.jp>

平成 10 年 10 月 1 日